





# 日本の国が始まった「飛鳥・藤原」を、「すみっこぐらし」とゆったり巡ろう!

日本の国がいつ始まったかを知っていますか?

律令制によって国を治める仕組みが完成し、日本で初めて本格的な都ができたのはおよそ1300年前。舞台となったのは、奈良盆地の南に位置する「飛鳥・藤原」でした。「飛鳥・藤原」エリアには宮殿、祭祀空間(神様をおまつりする場所)、庭園、仏教寺院、古墳などの遺跡が集まっていて、「日本国」誕生の記憶を刻んでいます。海外との交流や国家ができるみちすじを今に伝える遺跡の数々は、とても珍しく、他に例がありません。

奈良県では「飛鳥・藤原」の世界文化遺産登録を目指していて、実現すれば県内4つめの世界遺産となります。世界遺産は、世界の多様な文化や自然を人類共通の資産として、未来に向けて大切に守っていくものです。世界に誇る「飛鳥・藤原」の価値と魅力をあなたも感じてみませんか。



世界遺産登録をめざす「飛鳥・藤原」エリア



日本最初の都ができた場所なんだ

## 2 藤原宮跡



日本初の都、藤原京の中心施設「藤原宮」があった場所。一辺約1km四方の中に国の儀式や政治を行う大極殿や朝堂、天皇の住まいである内裏などが置かれました。都であった期間は694~710年の16年間ですが、その都の大きさは平城京や平安京を上回るものでした。

近鉄「大和八木」駅から橿原市コミュニティバス「橿原市藤原京資料室前」下車



土の中からたくさん大発見!

## 4 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



橿原考古学研究所が1938年に降行してきた発掘調査の出土資料を中心に展示しています。常設展、春と秋の特別展のほか、映像ライブラリー、情報コーナーも充実し、日本史の中でも重要な奈良県の歴史を紹介。休憩室など無料で利用できる施設もあります。

近鉄「畝傍御陵前」駅から徒歩約5分、近鉄「橿原神宮前」駅から徒歩約15分



藤原宮との位置関係に興味津々!

藤原京を造営した天武天皇、持統天皇のお墓です。藤原宮の中心を貫く線の真南にあたり、飛鳥時代に天皇陵だけに許されたと言われる日本独自の八角形の墳形を見ることができます。天武・持統天皇陵と藤原宮の位置関係は、当時の設計思想を今に伝えています。

近鉄「橿原神宮前」駅または「飛鳥」駅から明日香周遊バス(かめバス)「天武・持統陵」下車

極彩色の女子群像が有名だね



## 6 高松塚古墳

極彩色の鮮やかな女子群像が描かれた壁画が歴史教科書などでも有名な高松塚古墳。2005年の発掘調査によって、藤原京の時代に造られたと確定されました。壁画館では実物と同様の石室部や、発掘当時の壁画模写などを見ることができます。

近鉄「橿原神宮前」駅または「飛鳥」駅から明日香周遊バス(かめバス)「高松塚」下車

## 1 香具山(登山道)

香具山、畝傍山、耳成山は「大和三山」と言い、藤原宮の位置を決める上で重要なランドマークとなりました。中でも香具山は「万葉集」に数多くの歌が詠まれるなど、当時の人々に親しまれていたことがわかっています。小高い丘の山頂までは、歩いて13分ほど。遠足気分ですくことができます。

近鉄「大和八木」駅から橿原市コミュニティバス「木之本町」下車 ※香久山観光トイレから東へ徒歩4分。

三つの山を神様に見立てたよ



奈良の美味しいものがずらり!

## 7 まほろばキッチン



藤原京の地にふさわしく、宮殿建築を想わせる黒い屋根、白い壁、朱い柱の建物。大和三山をモチーフに「農・食・観」の施設を配置しています。生産者の顔が見える、安全・安心な地産農産物の「地産地消の輪」を広げています。

近鉄「耳成」駅から徒歩約15分



写真提供:大神神社

山全体が信仰を集めてきたよ

## 8 三輪山(大美和の杜展望台)



古くから「神の降臨する山」として信仰を集めた三輪山。山全体が大神社の御神体とされ、大神神社には本殿はなく、拝殿から三ツ鳥居を通して山に向かって拝みませぬ。境内の「大美和の杜展望台」は三輪山の秀麗な姿を眺望する絶好の場所です。

JR「三輪」駅から徒歩約5分(大神神社)



食と農の奈良 たっぷりのおもてなし!

## 9 なら食と農の魅力創造国際大学附属セミナーハウス~ホテル奈良さくらの郷~



言葉で表せない 楽しさだったんだ

カフェレストランからは大和平野を一望でき、旬の県産食材を使った食事を楽しむことができます。そのほか、最大150人が利用できるセミナールームや調理実習室、ゲストルームを備えています。ゲストルームをはじめ、館内では県産木材の落ち着いた香りの中でゆったりとくつろげます。

JR・近鉄「桜井」駅から奈良交通バス「山田北口」下車徒歩約15分



## 10 山田寺跡



JR・近鉄「桜井」駅から奈良交通バス「山田寺」下車



古代の謎解きが楽しめるぞ!

古代文化がリアルに感じられるよ

## 12 奈良県立万葉文化館



館内カフェ カリオン

「万葉集」を中心とする古代文化に関する総合文化拠点です。1階では万葉歌をモチーフとした「万葉日本画」などを展示。地下では、人形や映像、ジオラマ、音楽などにより、万葉時代の暮らしや、万葉歌人の心情などを紹介し、楽しみながら万葉の世界が学べます。図書館やショップも。

近鉄「橿原神宮前」駅または「飛鳥」駅から明日香周遊バス(かめバス)「万葉文化館西口」下車

## 11 奈良文化財研究所 飛鳥資料館



飛鳥の文化財を調査・研究する奈良文化財研究所の展示施設です。飛鳥寺跡や川原寺跡から見つかった華やかな装飾品や、時を告げる水時計、石造物、高松塚古墳の出土品、山田寺の東回廊など、飛鳥・藤原エリアの歴史と文化をわかりやすく展示しています。

近鉄「橿原神宮前」駅または「飛鳥」駅から明日香周遊バス(かめバス)「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車

「飛鳥・藤原」エリアは、日本に残っている最も古い歌集『万葉集』のふるさとでもあります。万葉集には4500首ほどの和歌があり、その多くは7世紀前半から8世紀中頃までのものだと考えられています。歴代の天皇・皇族から兵士や民衆まで、男の人も女の人も歌を作りました。恋心を詠んだ歌が多い一方で、貴族たちの宴会を詠んだ歌、旅を詠んだ歌、物語を題材にした歌など、いろいろな歌が詠まれました。

遣隋使や遣唐使などを通して、海外から積極的に文物を取り入れ、日本の国づくりが進んだ「飛鳥・藤原」は、国際色が豊かでした。皇族や貴族、官人たちは中国大陸の書物を、僧侶たちは経典をたくさん読み、たくさんの歌を残しました。高松塚古墳やキトラ古墳などの壁画には、中国大陸や朝鮮半島諸国の文化を思わせる四神や星宿が描かれています。「飛鳥・藤原」で歌を詠んだ人たちは、グローバル化した現代を生きる私たちと通じるものがあるかもしれませんね。



藤原宮跡では万葉集の世界を感じられる